

不真実なささげ物

マラキ書1章

あなたがたが盲目の獣を、犠牲にささげるのは悪い事ではないか。また足のなえたもの、病めるものをささげるのは悪い事ではないか。(8)

マラキが預言活動をした時代、イスラエルの信仰は完全に弛み、彼らは神の愛と憐れみに対して非常に懐疑的になっていました(2)。

自分たちの罪に無感覚になっていた人々に、主の言葉が語られます。当時、祭司たちは神殿で犠牲をささげるとき、律法に違反して盲目の獣、足が不自由な獣、病気になるつた獣をささげていたのです。最高のものを主にささげるべきはずなのに、商品価値の低いもので済ませようとしたのです。そのささげ物に彼らの主への信仰姿勢が表されていました。そこでマラキは、「これをあなたのつかさにささげてみよ。彼はあなたを喜び、あなたを受け入れるであろうか」(8)と問いかけ、神を侮る彼らの不真実を容赦なく糾弾しました。総督ですら受け入れないと分かっているささげ物を神にささげるとは何事か!という事です。主へのささげ物は、主に対するこちらの思いが表されるものです。自分の腹が痛まない程度のささげ物、それは自分にとつて神はそのぐらいの価値しかないことを告白しているのです。東の国の博士たちが自分たちの宝を幼子イエスにささげたように、わたしたちは最高のものを主にささげようではありませんか。主こそ、わたしたちのためにご自分の命をも惜しまずに与えてくださったのですから。